

## 世界農業遺産に認められた 自然環境を守る茶草場農法

小関 栄

粟ヶ岳の南東部周辺地域で、以前から行われている茶葉栽培の茶草場農法が、先般五月末のFAO（国際連合食糧農業機構）で世界農業遺産として認定された。

この周辺では、一般に茶業は五月初めの新茶摘み採りから始まって、初秋の九月まで何回か茶葉を刈取り、その後、茶畝の形を整えるため



写真は東山地区の茶畑と、遠くに見える茶文字の下側斜面の茶草場

の茶葉の刈落しをしている。そして十月になると茶畑周辺やのり地の雑草や雑木を刈り取る。この内、スキヤササなどは、十分乾燥させ細切れにして茶畝の間に敷き詰める。これが茶の栽培の年間の主な仕事であるが、この草を茶畝に敷き詰めるやり方が茶草場農法である。

この農法は、敷き詰めた草が春先の雑草の繁茂を抑え、また自然の益虫も生息するという環境を作り、春先頃までにその草が適度に腐敗し、茶葉の品質も良くする肥料となる伝統的な自然栽培の方法である。化学肥料はほとんど使わないで、茶葉の品質にも良いお茶の有機栽培として行われてきたものである。しかも、敷き詰める茶草も、さらに大量に茶草を刈り取れるよう、場所を決め茶草場までつくられている。我が家の周辺でも、古くから、このやり方で茶業を続けて来ている。しかし、最近では化学的な肥料や農薬が盛んに行われるに従い、次第に少なくなりつつあった。

この度の茶草場農法の農業遺産

の認定は、茶畑の整備、茶草を育て肥料に使う有機農業、茶草を育てて環境面からも自然を守るのでよいと見直されたわけです。

この農法による指定された地域の茶園と草刈り場は、五市に跨り、その総面積は297ヘクタールの広さ、そのうち粟ヶ岳の南東部の掛川市東山・大野地区と、そのさらに南の菊川市倉沢・富田地域の二地区で、全体の4分の3と大きく占めています。

最近では、農業も科学力で大いに成長続けてきていますが、その一方、その為に自然が侵され、自然とともに共生することが少なくなっている時に、このように自然を愛する強い感覚で、環境の保全にも役立つ伝統的な茶草場農法が、その価値が認められたことは、意義深く喜ばしく、何時までも存続させたいものと思っています。

(写真は掛川市環境経済部農林課より提供していただきました)

## 映像「みんなでやろう」

小さい農業

国会図書館に収蔵される

年前に作成した私たちの活動報告ビデオ「みんなでやろう小さい農業」がDVD化され、NPO法人科学映像館の理事長久米川正好氏のご尽力により、このほど国立国会図書館に収納されることになりました。今後は図書館のサーバーに保管館内での閲覧が可能になりました。

公の多くの方々の目に触れる機会が増えると同時に貴重な映像が未来への遺産として後世に残ることになりました。久米川さんは会員伊藤さんの友人で、今年春の叙勲で「瑞宝中綬賞」を受賞されました。なお、光陽の里の会員野田文子さんのお力添えでビデオがDVD化されました。ありがとうございます。

### INTERNET EXPLORER 画面よりアクセス手順

- ① 画面に みんなでやろう小さい農業
- ② でてきた画面の[みんなでやろう小さい農業]をクリック
- ③ でてきた画面の「カテゴリー別」の中から「農業、漁業、暮らし」をクリック
- ④ でてきたリストの中から  
910 みんなでやろう小さい農業  
をクリック画面が現れる。放映時間 47分